6.　上下顎骨にみられた多発性セメント質腫の1例

斉藤佳明，宇野弘成，早川弥和
花沢康雄，露崎孝二　　（千大）

症例：61歳，女性。5| 7|567 の根尖部と 6| および上顎左右臼歯の歯牙喪失部に多発性のX線不透過像を認めた。今回，炎症症状を生じた |567 部のみ抜歯・腫瘍摘出術を施行し，術後8か月現在経過良好である。病理組織学的にはセメント質の塊状増殖を主体として，セメント芽細胞はなかった。病理組織学診断：多発性セメント質腫。また過去22年間に本邦で報告された多発性セメント質腫に自験例を加えた48症例についても検討を行なった。

7.　顎下唾液腺原発の多形性腺腫の2例

大内　肇，勝見行雄，高原正明
土屋晴仁　　（千大）

57歳，女性。約2年前より左顎下部に小指頭大の腫瘤に気付き来院。CT にて肥大した左顎下腺中に density の異なる円形像を認めた。43歳女性，16年前に左側顎下部腫瘍摘出を受けるも，約1年前より同部の腫脹に気付き来院。CT では顎下腺に接する類円形の low density 像を認めた。2症例ともに顎下腺を含めた摘出術施行。病理組織学的に前者は被膜の1部が分離欠除していた。後者は多数の結節を認め再発例と考えられた。

8.　歯槽骨に吸収がおよんだ右口蓋部多形性腺腫

林　逸子，横江秀隆，宮　恒男
成川芳明，金沢春幸　　（千大）

硬口蓋に発生し，広範な上顎骨吸収をきたした多形性腺腫の1例を経験した。症例は39歳，女性。右硬口蓋の胡桃大腫瘤による発音障害を主訴に来院した。20年前より徐々に増大した腫瘍により 65| は頬側に転位傾斜し，口蓋骨から歯槽骨は著明に吸収されていた。手術は歯牙を含め一塊として切除した。当教室過去10年間の口蓋多形性腺腫17例のうち骨吸収を認めたものは5例で，本症例以外は口蓋骨の軽度圧迫吸収をみるにすぎなかった。

9.　過去10年間の口腔良性腫瘍の臨床統計的観察

永嶋昌之，庄司　晃，宮　恒男
金沢春幸，内山　聡，小原正紀
（千大）

1980年1月～1989年12月の10年間に千葉大学歯科口腔外科を受診し病理組織学的に良性腫瘍と診断された293例について臨床統計的観察を行った。歯原性腫瘍196例，非歯原性腫瘍42例，唾液腺腫瘍55例であり。男女比は，1：1.4であった。組織分類別では，歯原性腫瘍はエナメル上皮腫が39例，非歯原性腫瘍は線維腫が77例，唾液腺腫瘍は多形性腺腫が40例と最も多かった。

10.　小児の頬部にみられた線維性組織球腫と思われる1例

○真壁久幸，岩沢雄幸，成川芳明
熱田藤雄　　（千大）

症例：1歳11か月，男児。初診時，右側頬部に拇指頭大，球形，弾性硬の腫瘤を触知。CT にて頬筋外側に均一なX線不透過像として認めた。全麻下にて腫瘍摘出術を施行。摘出物は20×17×15mm で，薄い被膜を有し，その割面は，充実性で淡黄色であった。病理組織学的に，腫瘍は組織球様細胞の増殖を主体とし，storiform pattern を示す線維芽細胞様細胞および泡沫細胞からなり，線維性組織球腫と診断した。術後5か月現在，経過良好である。

11.　舌に発生した神経鞘腫の1例

小宮あゆみ，古谷隆則，高原利幸
高原正明，尹　錫哲　　（千大）

患者71歳，女性。初診平成2年7月26日。初診約1カ月前，某歯科にて左舌縁の腫瘤を指摘され来院した。腫瘤は直径20mm で健康粘膜に被覆され，弾性硬，境界明瞭，可動性を呈し，圧痛，波動はなかった。局麻下に全摘出術施行，腫瘤は線維性被覆に被包され，均一無構造，充実性で帯黄灰白色を呈した。病理組織所見および電顕所見により神経鞘腫（Antoni AB 混合型）と診断した。術後2カ月の現在，異常を認めず経過良好である。

12.　口腔底にみられた線維腫の1例

金子健太郎，石井俊彦，岩成進吉
石井　輝彦，金子　治，風間敏禎
高山　泰男，三宅正彦，工藤逸郎
（日大・歯・口外1）

今回われわれは，発生部位としては稀な口腔底に生じた真性の線維腫の1例を経験したので報告した。患者：38歳，女性。初診平成2年3月2日。主訴：口腔底の腫瘤。現症：5+5 の範囲の口腔底に胡桃大，弾性やや硬の腫瘤を認める。腫瘤表面は平滑であり正常粘膜により